

老朽原発このまま廃炉！ 大集会 in おおさか 全国から1600人が結集し、老朽原発の廃炉を要求／全国72会場でも！

12月5日に大阪市西区のうつぼ公園で「老朽原発このまま廃炉！大集会」が開かれた。全国から1600人が参加した。今年の6月6日の集会はコロナ禍の影響で1300人であったのからは若干回復したが、まだまだコロナ禍の影響で組織参加は少なかった。ただ多くの市民団体が参加し、集会に先立つ川口真由美さんの元気な歌声によって盛り上がった。我々も会場入り口で「大阪地検特捜部による関電役員の収賄罪非立件に抗議する」ビラを配布した。



挨拶する中野哲演さん



御堂筋をデモ行進

中野哲演さんの主催者挨拶では、「老朽原発を廃炉に持つて行くためには、目に見え、耳に聞こえる運動と世論を作っていく」と呼びかけられた。

引き続き井戸謙一弁護士から美浜3号機運転差止め仮処分裁判の報告が、そして名古屋での老朽原発廃炉訴訟の報告が行われた。

続いて福井の若狭町・小浜町、茨城県の東海第2原発の地元からの報告が行われた。

全国の脱原発を闘う仲間からのメッセージが紹介された。そして滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良の関西各地域の市民団体から運動の報告と連帯のアピールが行われた。

最後に集会アピール「原発のない、人の命と尊厳が大切にされる社会を実現しよう！」が木原壮林さんから提案され、全体の拍手で確認された。決議では「福島原発事故は、原発が重大事故を起こせば、人々の生活を根底から奪い去ることを教えた」「原発はいずれの面からも、稼働を容認できる装置ではありません」と述べている。

集会後には会場からナンバまでの御堂筋デモがにぎやかに行われ、道行く市民からも共感の声を得た。

「黒い雨」被爆者手帳交付問題 厚労省は約束に反する「考え方」

今年の7月の広島高裁での判決では、「黒い雨に遭った人は被爆者にあたる」として、原告84人全員を被爆者と認め、被爆者健康手帳を交付するよう国に命じた。

菅前政権は、上告せず、「同じような事情」の人たちも救済するとした。ところが、政府は11月30日に、新しい審査基準として、①黒い雨に遭遇、②その場所が自宅周辺、③対象となる11種類の疾病を発症、④黒い雨後も同じ場所で生活、を示し、範囲を厳格化しようとしている。

沖縄県知事 辺野古設計変更認めず 防衛省は国交省に不服審査請求

防衛省沖縄防衛局は辺野古基地の建設を巡り、昨年4月に設計変更を申請した。県は39項目452件について「災害防止」と「環境保全」の観点から審査を行い、11月25日に防衛省沖縄防衛局に不承認を通知した。

移転計画の「設計変更」は北側の海底の軟弱地盤を陸地化するためには、大規模な地盤改良が必要である。計画は2030年代後半に大幅に遅れ、総工費も約3倍となる。

この不承認に対して、沖縄防衛局は対抗として「行政不服審査請求」を申し立てた。



辺野古新基地

資料 福島第一原発 増え続ける放射能汚泥（スラリー）既に 3373 基を保管 多核種除去装置（ALPS）の汚泥など 耐用年数超え処分先もない

福島原発事故の放射線汚染物については「トリチウム汚染水」の海洋投棄が注目されているが、他にも多くの汚染物がある。その最大のもは事故で破損した3基の原発であり、廃炉とされた事故炉以外の3原発である。

事故炉の冷却で日常的に発生する「汚染水」を処理している「多核種除去装置（ALPS）」は放射性汚染物を消し去るわけではない。「ALPS」はセシウムやストロンチウム等の汚染物を濃縮してステンレス容器に保管している。

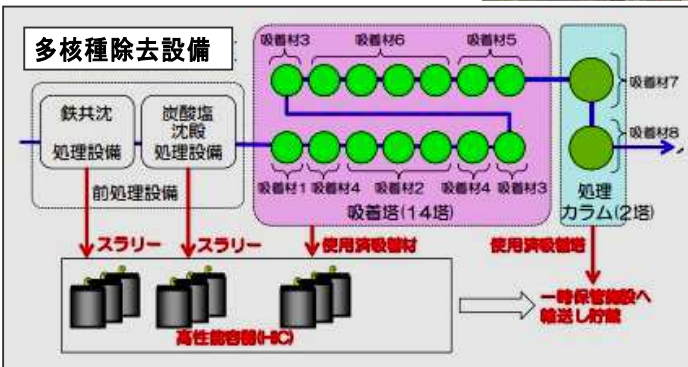
放射能汚泥の増加と保管の危機

右欄下の設備図のように「ALPS」は前処理設備と吸着塔（核種に対応して14塔）で構成される。吸着塔では化学処理や沈殿によって核物質を分離し吸着して「使用済吸着材」をステンレス容器に蓄積する。核種にもよるが極めて放射能の強いものもある。この容器は一時保管設備に輸送され貯蔵される。すでに3373基が貯蔵されている。容器は内側がポリエチレンで外側がステン

であり、累積 5000K ベクレルの寿命と言われており、規制委は31基がすでに耐用年数を超えているとして、東電に詰め替えを指示している。しかし、東電はまだ放射能対策をした詰め替え方法を研究中という段階である。



スラリー容器



アベノマスク倉庫に山積み／保管費6億円(朝日 12/2)
 安倍元首相も使用しなくなった「アベノマスク」。この役にも立たないマスクが8272万枚も倉庫に保管され、保管料が約6億円かかり、今年も3億円かかるという。

安倍氏の思い付きで、機能的にも役立たない小型の布マスクの調達と配布に総額500億円の無駄使い。普通の企業で社長がこんなことをしたら倒産である。

君が代訴訟／再任用拒否は「逸脱」(朝日 12/10)

君が代の起立斉唱する意向が確認できないとして、大阪府教委が再任用しなかったのは違憲・違法として損害賠償を求める訴訟の2審判決が大阪高裁であった。裁判長は「再任用しなかったのは裁量権の逸脱で違法」として損害賠償の支払いを大阪府に命じた。

IOC共同宣言「五輪の政治化断固反対」(朝日 12/13)

バイデン米大統領が中国で開かれる冬季オリンピックへの政府関係者の参加を中止するなど、オリンピックを政治的に利用している。これに対してIOCはスポーツ界の代表を集め「五輪サミット」を開いて、オリンピック運動の政治的中立の必要性を強調し、「五輪とスポーツの政治化に断固反対する」との共同声明を発表した。

関生労組 加茂生コン事件で無罪判決(12/13)

12月13日大阪高裁は、加茂生コン事件に対して、組合員の子どもが保育所に通うために「就労証明書」を繰り返し要求したことは強要未遂ではないとして無罪判決をした。裁判所前には120人の支援者が結集し勝利を喜び、引き続き一連の弾圧と闘うことを誓い合った。

森友赤木訴訟 国が賠償認め終結へ(朝日 12/16)

12月15日の訴訟手続きで国は突然、「原告の損害賠償請求を認諾する」と伝え、裁判は終結した。これに対して原告側は、「金を払えば済む問題ではない」「真相を闇に葬られたまま裁判が終わることは納得できない」との怒りの声を上げ、今後も闘いを継続する意向である。

案内 森友事件は未解決！怒りのデモを！
12月25日 11時～ 野田中央第2公園

政府は卑劣にも赤木裁判を金の力で終結させ逃亡しようとしている。金を払えば＝それも我々の税金＝済むことではない。真相解明の闘いは今後も続くし、続けなければならぬ。今年最後の「怒りのデモ」に参加しよう！

日時:12月25日(土) 午前11時集会、デモ出発

場所:野田中央第2公園(阪急庄内駅下車)

主催:「森友学園」疑惑を許すな！実行委員会

案内 第10回 さよなら原発1000人集会



毎年年末に兵庫県伊丹で開催される「さよなら原発1000人集会」が12月26日に開かれる。今年はテーマとして、原発に頼らない「持続可能な社会」を考える講演を中心に開催。

日時:12月26日午後2時(1:30開場)

場所:兵庫県伊丹市 いたみホール

講演:田中優子 元法政大学総長
 松下照幸 美浜町議会議員

報告 教科書全国集会 2021
政府見解をすり込む教科書NO!

集会は約100人の参加者と、全国の25人を超えるZOOM参加者によって開かれた。夏の全国での教科書採択での勝利を背景に確信に満ちた集会であった。

上杉共同代表の「闘いをもう一歩前へ進める闘いを」との呼びかけで始まった。講師の高嶋伸欣さんは「高校教科書書き換え問題の本質」の講演の中で「見えてきた歴史改ざんの限界と社会健全化の気運」を展開された。引き続き全国各地から闘いの報告がされた。

報告 「アジアから問われる日本の戦争」展 2021 (12/10-12) 成功裡に終了



フクシマ 書と朗読



廊下の展示に見いる



大阪狛犬会



関西わだつみ会

「アジアから問われる日本の戦争」展 2021 が12月10日から12日まで開かれた。会場入り口には西端さんの作品が「フクシマ 書と朗読」として展示された。そしてフクシマ写真展、辺野古新基地建設、宮古島自衛隊基地建設、伊丹自衛隊抗議行動、領土問題、教科書展示、日本軍「慰安婦」問題、未来のための歴史パネル展、関西わだつみ会、大阪城の狛犬会など10団体が参加した。

会場には3日間で約500人が参加した。別会場で開かれた映画では、西崎信二監督の最新作『標的』、原一男総監督＋武田倫和演出の『ウトロ家族の街』、太田隆文監督の『沖縄戦 知られざる悲しみの記憶』が上映され、多くの参加者をあつめた。

実行委員会はこの成果をもとに2022年4月末に「戦争展2022」を成功させようとしている。

原発いらナイトin宝塚

2021/12/24

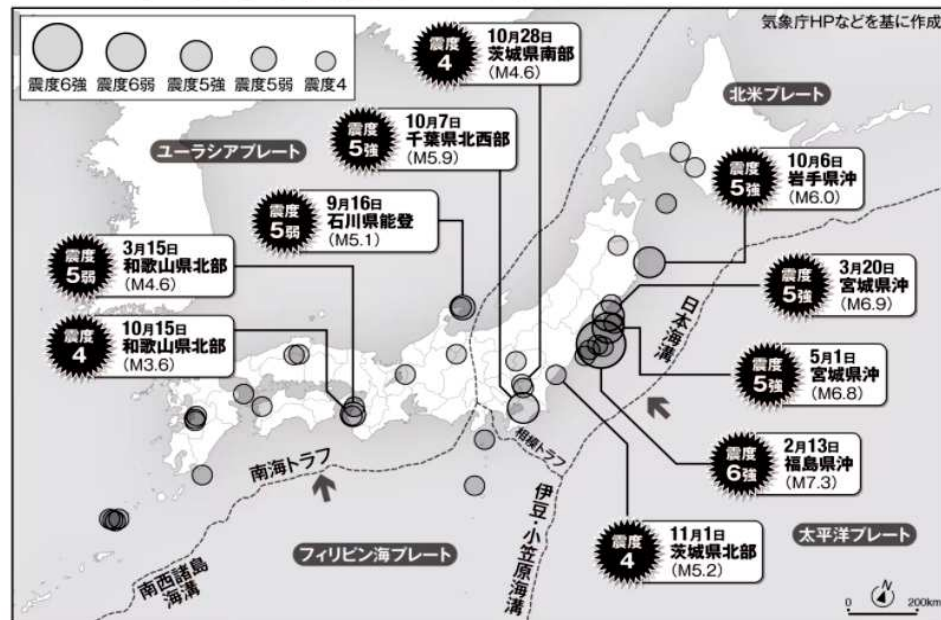
不気味な揺れが続く日本を 「南海トラフ巨大地震」が襲う！

「南海トラフ地震」の地殻変動はすでに始まりかけている

12月3日に富士5湖で震度5弱、和歌山でも震度5弱の地震が、翌日からは奄美のトカラ列島で200回以上の群発地震が発生。今年には震度4以上の地震が37回発生しています。これらの地震と火山活動はすべてフィリピン海プレートの縁に沿って起こっているのです。

日本地理院の基準点測量によると8月半ばから日本列島の地殻変動に変化が現れるなど不気味な現象が起きており、地震学者の間からは「巨大地震がいつ起きても不思議でない」との警告がされています。

2021年 主な地震発生マップ(震度4以上・1月1日~11月1日)

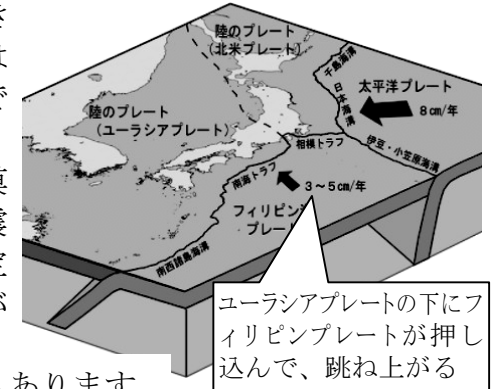


「南海トラフ地震」は30年以内に70~80%の確率で発生

「南海トラフ」とは、東海地方から四国西部まで約700Kmの水深4000mの深い溝です。その下にはフィリピン海プレートが深く沈み込んでいます。過去にはここを震源とする大地震が10回記録されており、90年から150年周期で大地震を引き起こしてきました。政府の地震調査委員会は「30年以内に70~80%の確率で発生する」と発表しています。

前回(1944年)は比較的小規模であったので今回は大規模な地震の可能性もあります。前々回の宝永地震の時は49日後に富士山が大噴火を起こしました。

以外に首都直下型地震の危険もあります。



ユーラシアプレートの下にフィリピンプレートが押し込んで、跳ね上がる

伊方原発(愛媛)、浜岡原発(静岡)はどうなるのか？

「南海トラフ地震」が起きた場合、日本列島では10県で震度7以上の揺れ、6都県で20m以上の津波が発生すると予測されています。地震による建物の崩壊と火災の発生、橋や道路の崩壊などの被害が予想されますが、東北大地震で発生した原発への影響が懸念されます。

影響を特に受けるとみられるのが、浜岡原発と四国の伊方原発です。浜岡原発は東海地震の震源域の真上に位置しています。津波対策として20mの防波壁を作成していますが、地震による崩壊などの危険性があり、津波だけでなく原子炉そのものの破損の危険があります。四国の伊方原発は既に稼働しているので事故の危険は一層深刻です。

世界有数の地震国であり、大規模な地震の発生が予想されている日本で、列島各地に原発を稼働させることは極めて危険です。すべての原発を廃炉にして、原子炉の安全対策を直ちに進めるべきです。

**地震列島日本の原発はすべて廃炉に、
そして安全対策をすべきだ！**

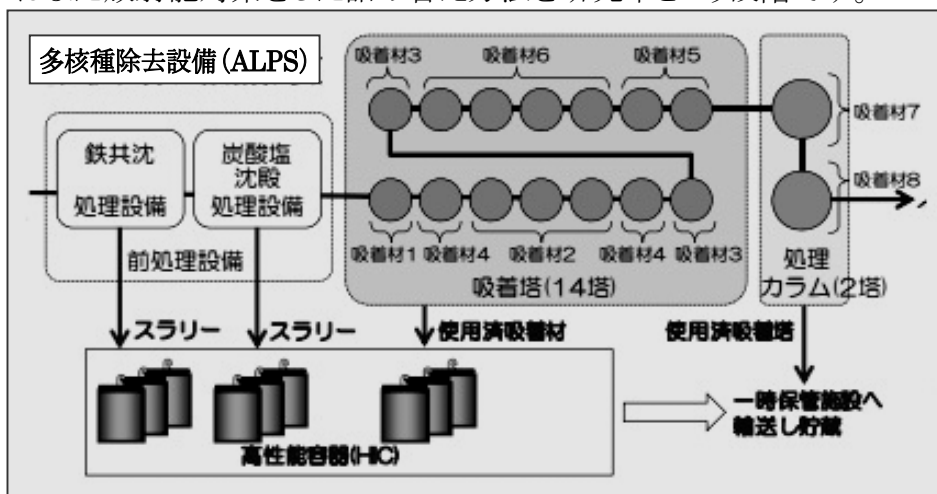
福島原発事故現場の「多核種除去装置 (ALPS) で 増え続ける危険な放射能汚泥

「トリチウム汚染水」だけでない汚染物の蓄積

福島原発事故で発生する放射線汚染物については「トリチウム汚染水」の海洋投棄が注目されていますが、他にも多くの汚染物があります。事故炉の冷却で発生する「汚染水」を処理している「多核種除去装置」は放射性汚染物を消し去るわけではありません。セシウムやストロンチウム等の核汚染物を濃縮してステンレス容器に保管しています。

高汚染の「放射能汚泥」の増加と保管の危機

下図のように「ALPS」は前処理設備と吸着塔(核種に対応して14塔)で構成される。吸着塔では化学処理や沈殿によって核物質を分離し吸着して「使用済吸着材」をステンレス容器に蓄積します。核種にもよりますが極めて放射能の強いものもあります。この容器は一時保管設備に輸送され、すでに3373基が貯蔵されています。この容器は累積5000Kベクレルの寿命と言われており、規制委は31基がすでに耐用年数を超えているとして、東電に詰め替えを指示していますが、東電はまだ放射能対策をした詰め替え方法を研究中という段階です。



12/5 老朽原発このまま廃炉！大集会 in おおさか

1600人が参加して廃炉を訴え

12月5日に大阪のうつぼ公園で集会が開かれ、全国から1600人が参加しました。中畠哲演さんが主催者挨拶で「老朽原発を廃炉に持って行くためには、目に見え、耳に聞こえる運動と世論を作っていく」と呼びかけ、引き続いて各地の運動が報告されました。



宝塚からも、全国から運動報告

関西各地の、そして宝塚からも運動が報告され、最後に「原発のない社会をめざそう」との決議が採択されました。そして会場からナンバまでの御堂筋デモが行われました。



さようなら原発 1000人集会

日時：12月26日(日) 午後2時開演

場所：いたみホール(阪急伊丹駅)

講演：田中優子(法政大学名誉教授)

「江戸から見る現代社会」

講演：松下照幸(美浜町議会議員)

「原発現地報告～若狭から」

主催：1000人集会実行委

第10回さようなら原発1000人集会

原発のない明日をつくる!

2021年12月26日(日)
午後2時開演(1時30分開場)
いたみホール

本公演
会場: いたみホール、伊丹駅前、
阪急伊丹駅、阪急伊丹駅前、
伊丹駅前-3風以下無料

田中優子さん
「江戸から見る現代社会」

松下照幸さん
「原発現地報告～若狭から」

次回の 第106回原発いらナイト in 宝塚

2022年1月28日(金) 午後5時～6時

JR-阪急宝塚線陸橋 古家義高さんのサキソフォン演奏